



読書の秋に

校長 垣崎 晃

朝晩には、涼しいほどになりました。読書の秋、芸術の秋のまっただなか、子供たちは、前期のまとめをしております。10月16日からは、後期の学習のスタートになります。子供たちのために、教職員一丸となって取り組んでいきます。

さて、秋になると必ず耳にする「読書の秋」という言葉。いつから、どのような理由で言われるようになったのでしょうか。その答えのヒントは、中国にありました。

「読書の秋」の由来として多く語られるのが、古代中国の漢詩です。詠んだのは唐代の詩人として高名な韓愈（かんゆ）で、時代は8世紀頃とされます。問題の漢詩というのが「符読書城南詩」で、学問の大切さを伝えています。その中に次のような一説が登場します。「時秋積雨霽、新涼入郊墟。燈火稍可親、簡編可卷舒。」日本語に置き換えると、「秋になり長雨があがって空も晴れ、涼しさが丘陵にも及んでいる。ようやく夜の灯に親しみ、書物を広げられる。」というような意味です。この漢詩は、もともと韓愈が息子に読書の大切さを教えるために読んだと言われていますが、この漢詩は多くの人を納得させ、広まっていったことで現代でも言われ続けているようです。

読書活動は、子供が言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにし、人をより深く生きる力を身に付けていく上で欠かせないものです。また、自分と違う世界、体験できない世界、自分と異なる考えや生き方、思いもよらない素晴らしい出会いもあります。

学校では、週一回の読書タイムを設けています。また、10月19日から2週間、読書週間を計画しています。（詳しくは後日発行します、図書館だよりをご覧ください。）活動を通して、子供たちが読書の楽しさをさらに味わっていただけるよう指導してまいります。ご家庭でも応援をお願いします。

道徳教育の充実に向けて

（研究主任 明星 麗）

学校で指導する内容を定めた『学習指導要領』は10年に1度改訂されます。今回の改訂（令和2年度から全面実施）では、外国語やプログラミングが話題となりましたが、実は改訂の大きな3本柱の一つに「道徳教育の充実」が挙げられています。今大人になっている方々の中には道徳に対して「テレビを見る時間」等のイメージをもたれていることもあるかもしれません。現在の道徳授業は“教科書”をもとに、よりよく生きるために自分自身を見つめ直します。本校でも昨年度から『道徳』を研究テーマにし、よりよい授業を目指して様々な取り組みを行っています。「道徳授業地区公開講座」ではお子さんの様子と共に、道徳の授業の流れについてもじっくりと参観していただきたいと考えています。